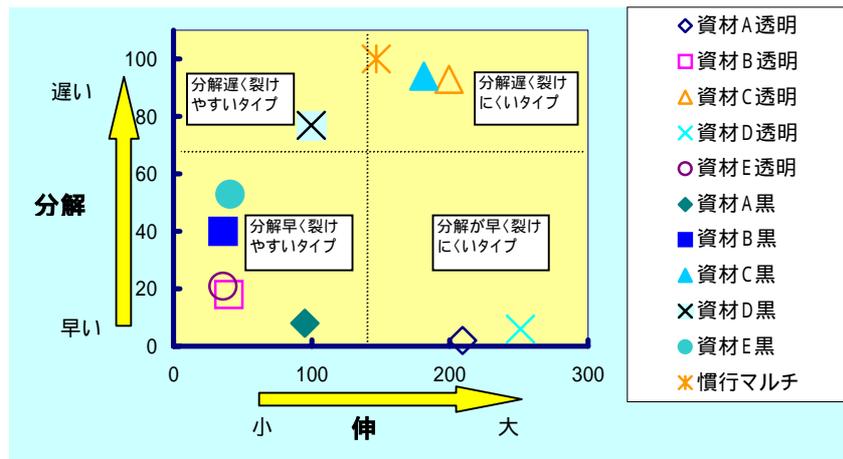


生分解性プラスチックマルチの特性と選択の目安

現在市販されている生分解性プラスチックマルチは、伸びの大小と土壌中での分解程度から4タイプに分類されます。各種作物に適したタイプの資材を選択することで、栽培上問題なく利用でき、生育収量もポリマルチ並を確保することができます。使用後は鋤き込むことにより、マルチ回収作業は省略でき、後作への影響もみられません。



縦軸は土壌中に埋め込んだマルチを90日後に取り出したときに分解せず残っている面積(%)
横軸は伸びの大きさ(mm)

図1 各生分解性マルチの特性によるタイプ分類

表1 生分解性マルチ選択の目安

栽培作物	使用の望ましい資材タイプ
生育期全般にマルチが必要な作物 (タバコ、えだまめ等)	分解の遅いタイプ(,)
全面マルチなど強度を必要とする作物 (レタス等)	伸びが大きく裂けにくいタイプ (,)
初期生育確保にマルチが必要な作物 (キャベツ、だいこん、スイートコーン等)	基本的にはどのタイプでもOK (~)
ハウス果菜類(トマト)	分解の遅いタイプ(,)

使用の望ましい資材タイプの()内は図1の分類参照
ハウス果菜類は他県での試験事例で適応性が認められている。

参考

生分解性プラスチックマルチの連用鋤込みによる後作への影響をだいこんと小松菜で調査したが、両作物とも鋤込みの有無による生育への影響は見られませんでした。



写真1 生分解性プラスチックマルチ鋤込み風景